

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 30 号 平成 20 年 5 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

旭労災病院との病診連携

黒木内科クリニック院長 黒木 秀明



黒木内科クリニックは、守山区吉根、労災病院から北西に約2Km、車で5分の所にあります。開業は、私が10年半勤めた労災病院を辞した直後の平成11年10月。今年で9年目になりました。このあたりは、名古屋のチベットと言われたくらい(本当にチベット寺院があります!)、開業当初人家も少なく、道路の整備もできていなかったのですが、ガイドウェイバスの開通、ショッピングセンターや大型電気店の開業などとともに、人口が3倍に増え、ずいぶんにぎやかになりました。

開業以来患者の紹介、検査の依頼あるいは患者の逆紹介などで、労災病院にお世話になることが多いのですが、それに大きな役割を果たしているのが病診連携室の存在です。病診連携室は私が労災病院在職時からあったのですが、当時はわずかな人員で細々とやっていた程度でした。しかしこの数年で人が増えるとともに、仕事の内容や勤務時間数が多くなり、利用する側としては格段に便利になりました。まるで院内にいて、他科受診や検査のオーダーをしているのとあまり変わらない、そういう感覚です。最近は周りの主要な病院も病診連携に力を入れ始めていますが、ほとんどの患者を受け入れてもらえる点、比較的簡便に患者の紹介や検査の依頼ができる点、確実に返事をもらえる点などで、労災病院が一番だと思います。

一部に担当医がめまぐるしく変わるとの評判があったり、アクセスがあまり良くないため、車に乗らないお年寄りには近くて遠い病院であったり、労災病院の存在を知らない若い患者さんが増えているなど、労災病院に多少問題はありますが、病診連携を通してますますまわりの開業医との連携を強め、私たちがより頼りにする病院になっていただきたいと思います。そのためには私たち開業医は協力を惜しみません。

*今回、旭労災病診連携システム登録医黒木内科クリニック院長、黒木秀明先生より原稿をお願いいたしました。

Two steps to save a life

循環器科部長
谷 智満



一般市民が行う心肺蘇生では、胸骨圧迫のみの心肺蘇生（Hands-Only CPR）を推奨

米国時間 2008 年 3 月 31 日アメリカ心臓病学会より一般市民が行う心肺蘇生法に関する声明が出されました。

バイスタンダーCPRは、蘇生率を改善するための有効な方法である事はこれまでの研究で示されてきました。しかし、実際には3分の1以下の患者さんでは適切に行われていません。これは、バイスタンダーが悪いことをしてしまうのではないかと、状況を悪くしてしまうのではないかとという恐れがあることがひとつの要因です。

そこで、手順が簡略化されました。

これが、表題の”Two steps to save a life”です。

1) 救急要請（119 番へ電話）（Call 911）

2) 胸部の中央を強く速く押せ（Push hard and fast in the center of the chest.）

この2つを怖がらずに行い、このことよってのみ助けることが可能になると推奨しています。

この方法が、胸骨圧迫のみの心肺蘇生（Hands-Only CPR）です。

この声明に大きな影響を与えた論文が *Cardiopulmonary resuscitation by bystanders with chest compression only (SOS-KANTO): an observational study (SOS-KANTO study group The Lancet - Vol. 369, Issue 9565, 17 March 2007, Pages 920-926)* です。

従来の CPR 法では人工呼吸が一般市民の CPR 施行に対する最も大きな技術的・心理的障壁の一つでもあり、人工呼吸の蘇生の初期の段階での必要性を検討した論文です。

今回の研究では、心停止で倒れた際に、居合わせた人の応急処置を受けた成人 4,068 人について調査した。その結果、神経機能が比較的良好であったのは、心停止から 4 分以内に胸部圧迫のみを受けた人では 10.1%であったのに対して、人工呼吸も受けた人では 5.1%であった。心拍異常や呼吸停止を来した患者でも、胸部圧迫のみではこれに近い効果がみられたが、人工呼吸を加えることによる利益を示す根拠は認められなかった。

このようなエビデンスが日本から発せられたということは大変喜ばしいことであり、すばらしいことと考えます。

ハンズ・オンリーCPR によるバイスタンダーCPR 施行率と蘇生率の改善が期待されます。

また、病診連携を通じてこの地区の CPR 蘇生率の改善に役立ちたいと考えております。